

古事類聚

十卷

卷八



95
5338
2

市政日誌第八號

慶應四年戊辰六月八日



○六月八日水裁判石日あひく申渡

り酒

地酒

同屋共

其方とも優是と旧幕府へ上納致来は酒税金の依
自今以後引續同換上納は換り致を納方の交り致
是まぐの振合よて公簿

○

○同日於南裁判所中後

新吾原町

深川尾江町

外三ヶ町之庭

持女屋共

予方世後先達を國恩冥加の爲に吾原町のうへ
月々持女揚代を揚言の一刻深川のうへに今年も金
万六千五百圓割上納お取回幕府より預め通
十付金に交自今以後是まぐの通り上納中付はる
納方あり初て是迄の振合より可心得

○六月八日

例年六月廿八日川びき横山町家主花火波世
縫屋結多末揚初め有るいとるおおくも今年
六月八日懸附して揚初めつてい事

○同九日書上

昨八日花火あぶ初老く付る玉東病廣小改帳の
の揚後并深川の出入るもる酒へたて中上

一家形船

田艘

但借汁とわくと唱い分

一日除船

凡四日艘余

但信より船毎舟と申す

一 小船を舁ぐ

凡五舟艘程

右、新大橋迄の川舟船数多て町人子供等も乗
込武家方ハ少く音曲唱物木の船もあつて一軒去ル
其年一分は舟中絶つて一、船後故船もあつても
多く空舟川筋の船も凡出切は故より舟
水着屋料理屋合敷商人あつた舟の内より
お徳と客有る夕景より船よりゆき一、時客

込合お徳の舟の言より舟は故より舟も船より舟
舟もよふ一一く往來人々も多くと時系舟船存の舟の
船ひよく去ル成年一川びよ舟船大橋初老の
舟もよふ舟もよふ舟もよふ舟もよふ舟もよふ舟もよふ
舟もよふ舟もよふ舟もよふ舟もよふ舟もよふ舟もよふ
舟もよふ舟もよふ舟もよふ舟もよふ舟もよふ舟もよふ

右取調十石以上

六月九日



○六月十日町能南裁判所より町年寄一後
市中へ福達

津田玉川の上へ掛茶屋後改新地掛り後不とも
徳川龜の助方より今般市改裁判所へ送るに成
致す是迄の通結り申す申す申す前々旧幕府の
觸金に懸おる屋式を外右掛りへ訴来し廉辰
のに市改裁判所附上水方屋後改役不へ可申す
右へ通り可申す觸金

辰二月

○六月十日町能南裁判所より後

下谷同朋所

新築地借

利兼尾州住宅付

屋支配人

寺右条

其方後去月十二日兵火より一町
其日稼籠のりとのども又と年日出入成り不持地
面店借のりとのども一右條のり柄合を分より同
寺分取来宛部合合致る六掛七番解施より一
以給一候奇持の事より申すより

馬九宰相殿へ送
法徳出極の紙とのり
齋灸とて銀指の板とて世をさす

右方名を麻上下着用して出通例白漸とあり
く中後のととる右仁意の紙板別と記
板の紙とのりて裁判不仕度又ありと判事
土方大一部中後

市政日誌第九號

慶應四年戊辰六月八日

○六月八日

江府控判事 陸原悳左部 市政北裁判不掛
又紙 作付

○追加

判事 西尾遠江 市政北裁判不掛
判事 土方大一部 南裁判不掛
判事 新田三希 社寺裁判不掛又掛

判事、小笠原唯八イナヤカ軍監イナヤカ掛り、又勝イナヤカして真品
白川江へ出立イナヤカ

○

通寺町目新及

源次希地借

恭 茂

殿中市出入傳用向江 作付イナヤカととる江

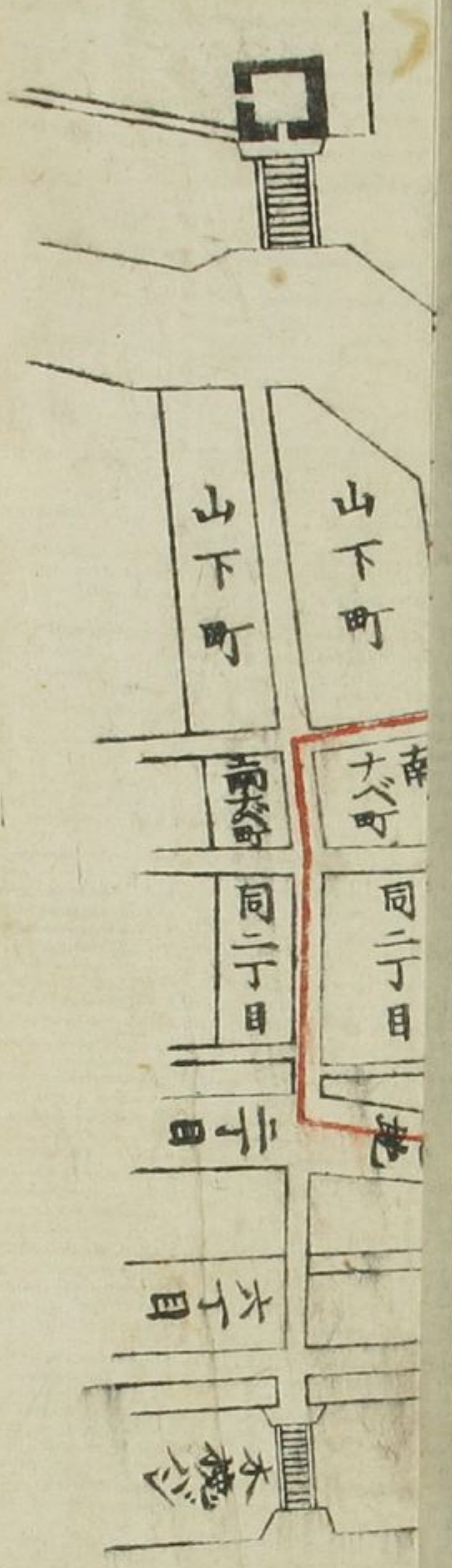
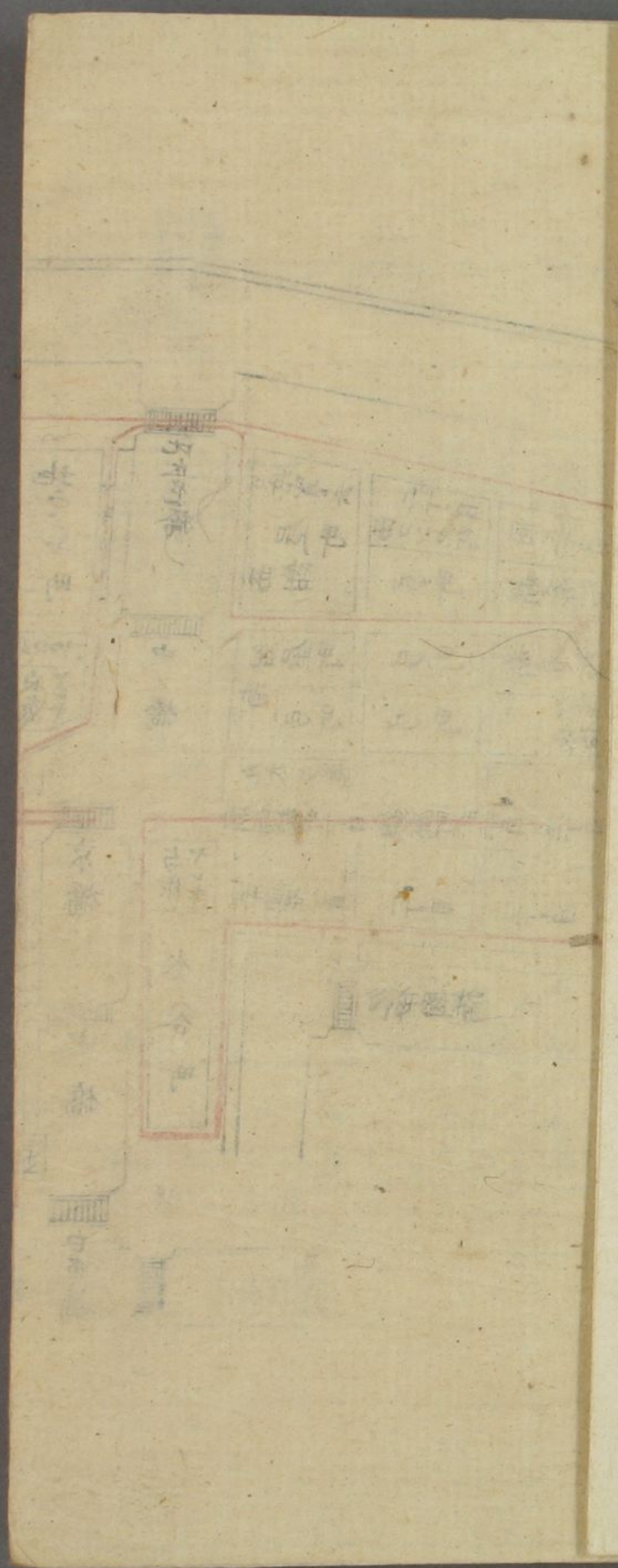
免以事

六月十日

○

六月十一日須賀社牛頭天王の南傳寺町飯家一
出興出興巡行町如繪前夜九ツ時より神田明神社
と出興出興十二日夕八ツ半時迄如繪と漸く飯家入飯家と出興
近年一出興出興寺寺飯家飯家及及節節結結の外外維維弘弘群集群集
一々巡行巡行の者二日二夜有り市民互互と出興出興
十八日為興為興と出興出興は日由維弘維弘あむあむと一々巡行
ヨリヨリ

他例年他例年祭礼六月七日出興出興十四日為社為社有り有りと去
実外実外多多故故ありて巡行巡行と出興出興は近年出興出興と付日限限



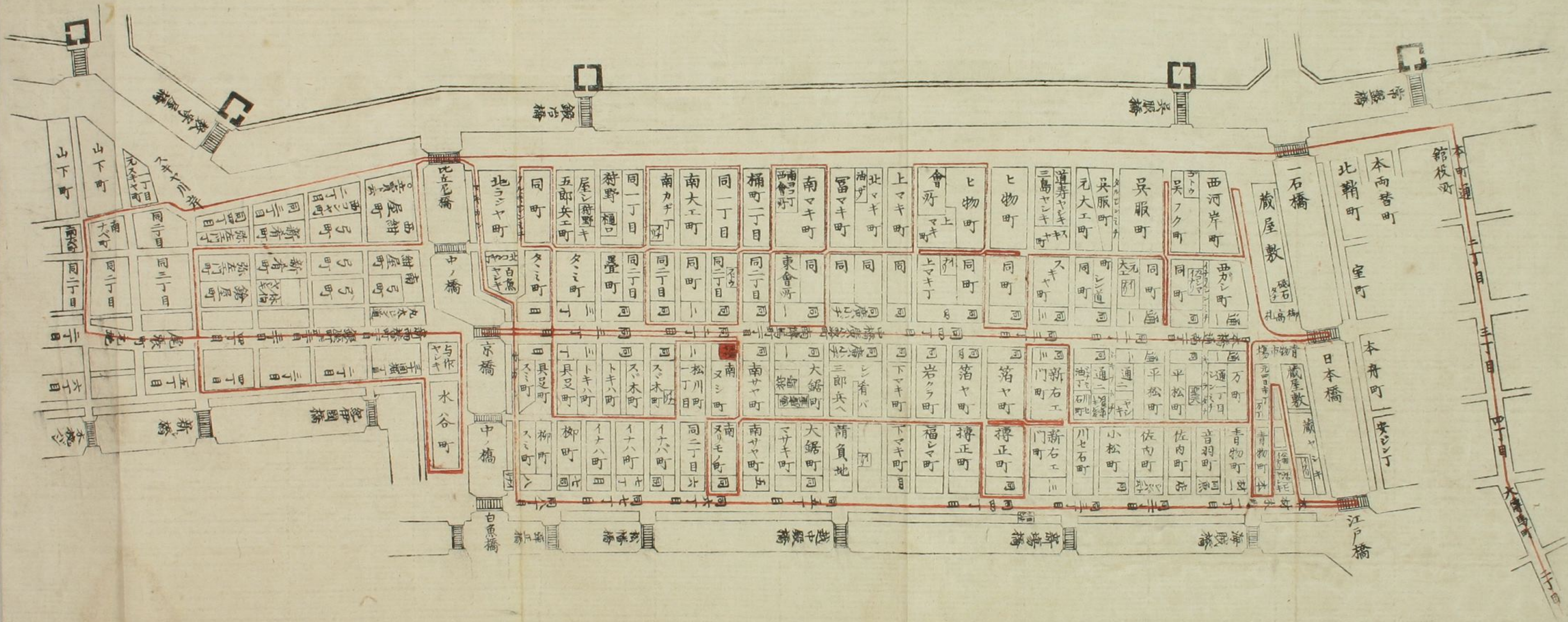
九景

お後^あの事

南傳馬町須賀社祭禮

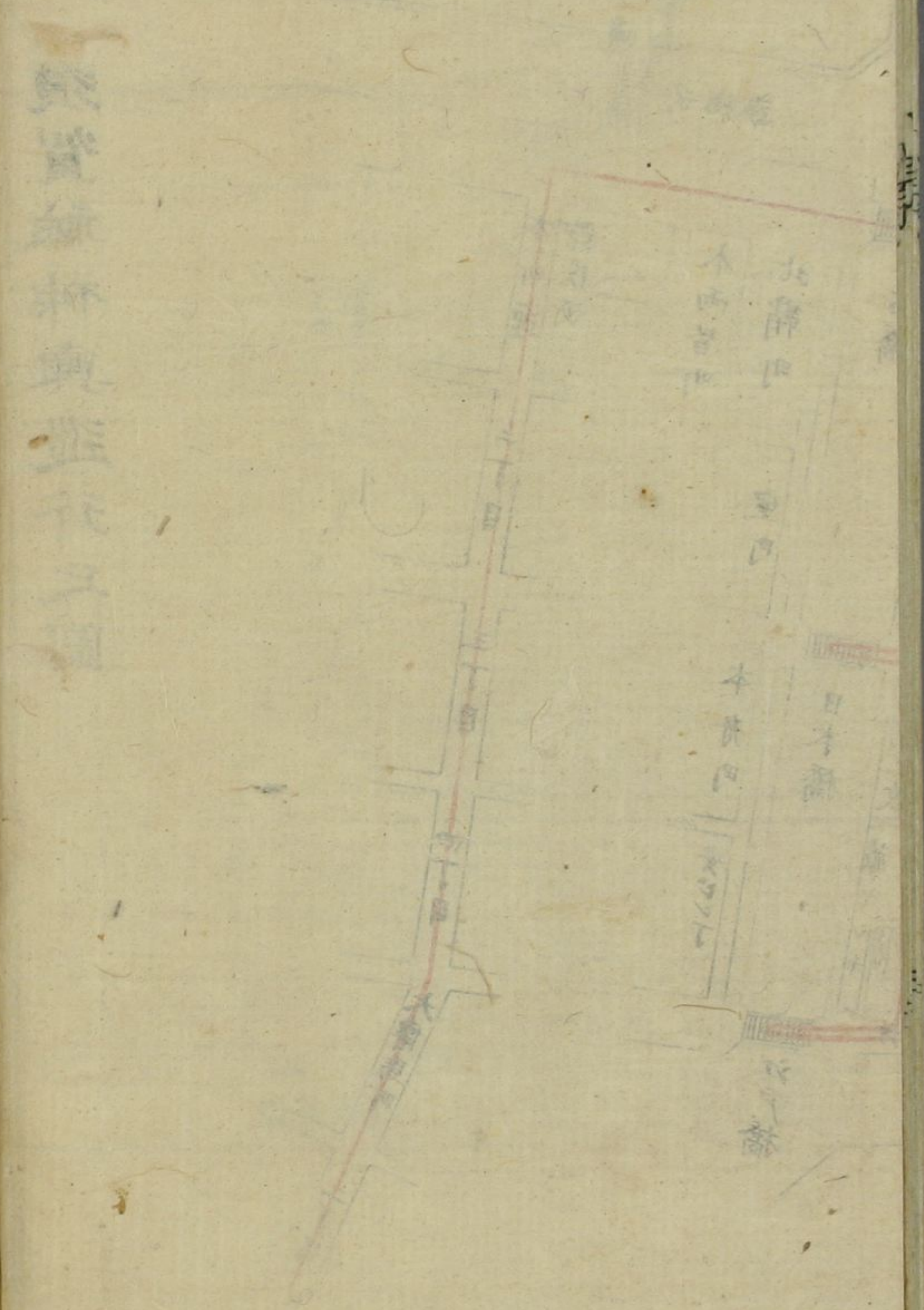
氏子町と巡行集引景の事

須賀祇神輿巡行之圖



六月廿日八雲社 牛形天王の神号を改らる例年祭礼
六月十日出雲十三日海社より宮井
 年巡り 昔より今年より 出雲前夜九つ時頃より神田明神
 日限相後 是出雲へ 出雲前夜九つ時頃より神田明神
 社と出雲前夜九つ時頃より神田明神
 分共十六里 廿三日海社の変通年一 出雲前夜九つ時頃より神田明神
 及なり 廿三日海社の変通年一 出雲前夜九つ時頃より神田明神
 梁の多し其上大風雨の日有るは付巡りお後
 是廿六日の夜小舟町飯家より入聖廿六日海社より
 巡りの者七日七夜より飯家より入聖廿六日海社より
 集り

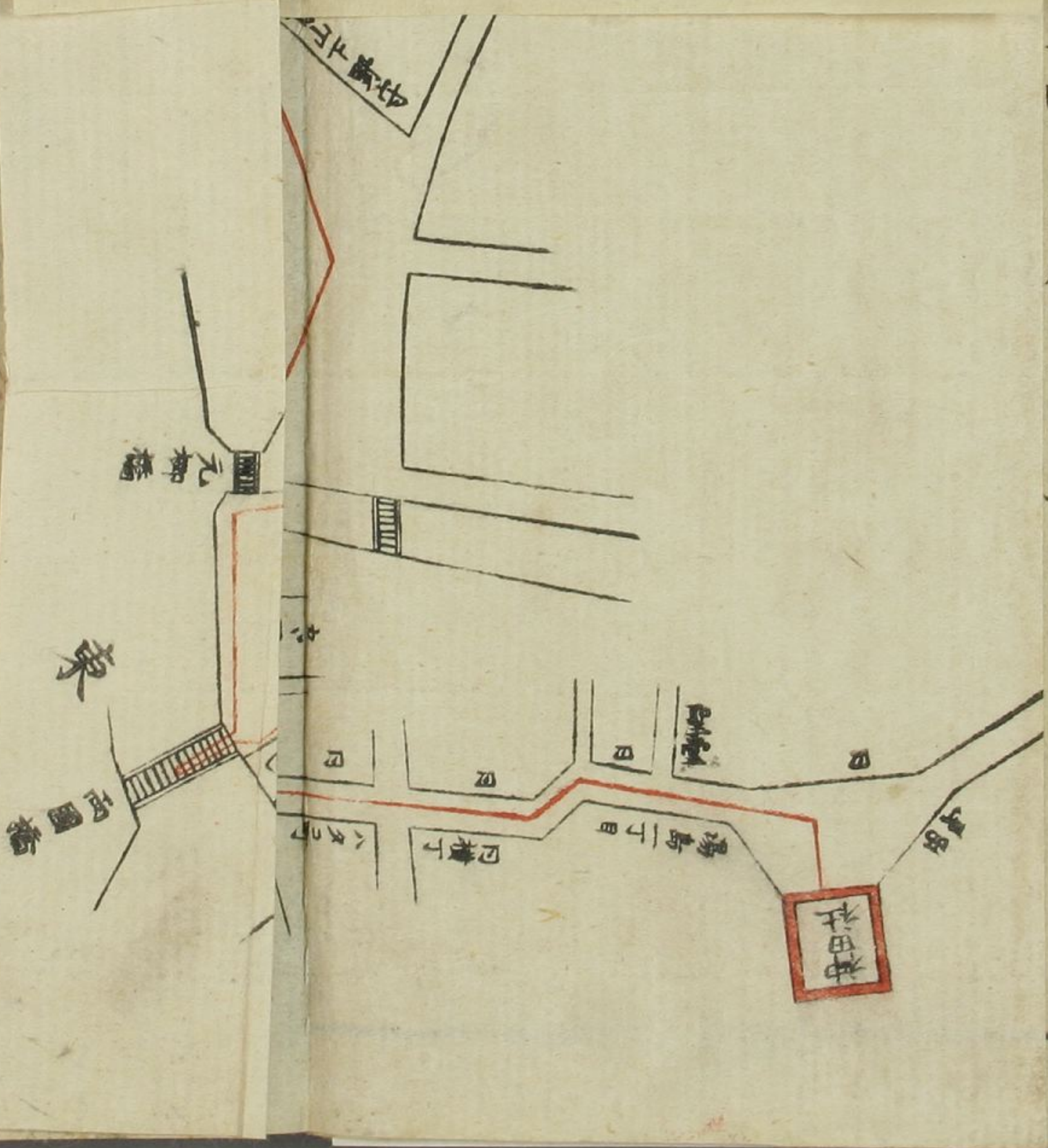
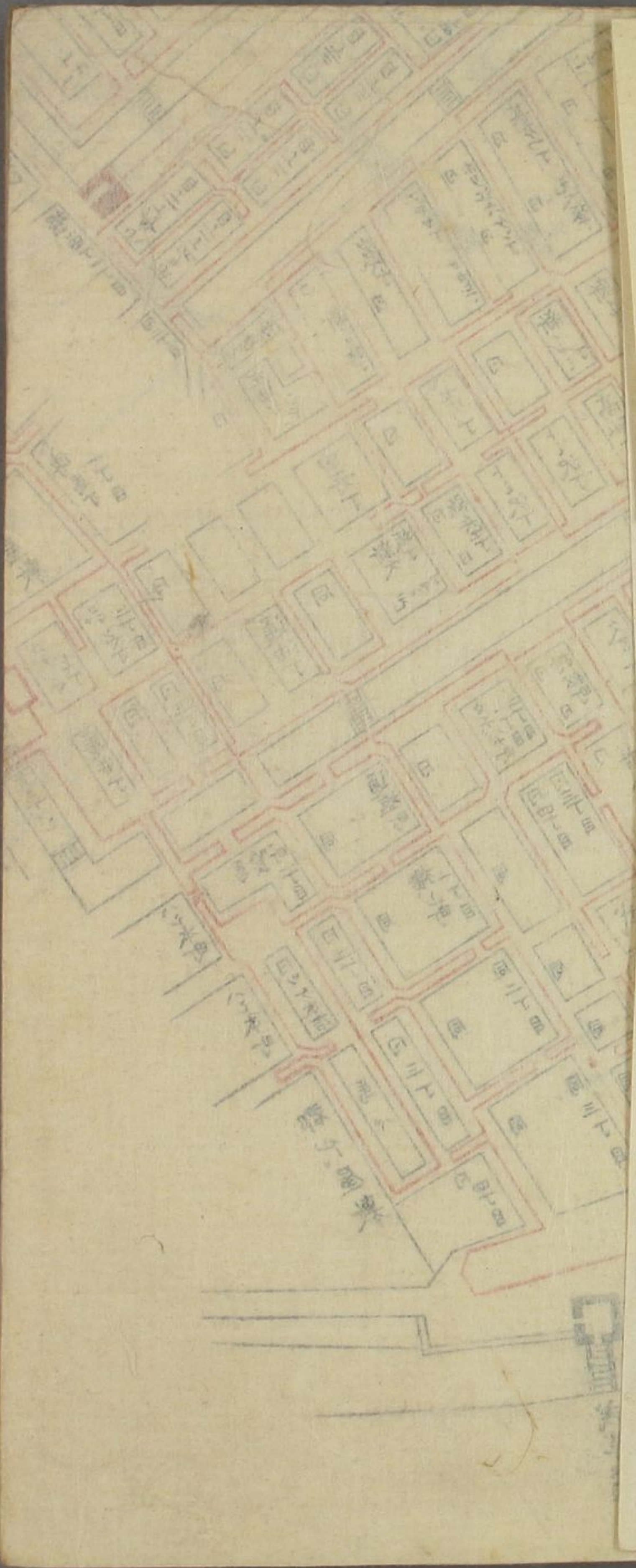
○



八幡橋

九

氏子町々巡行朱引家のぼし



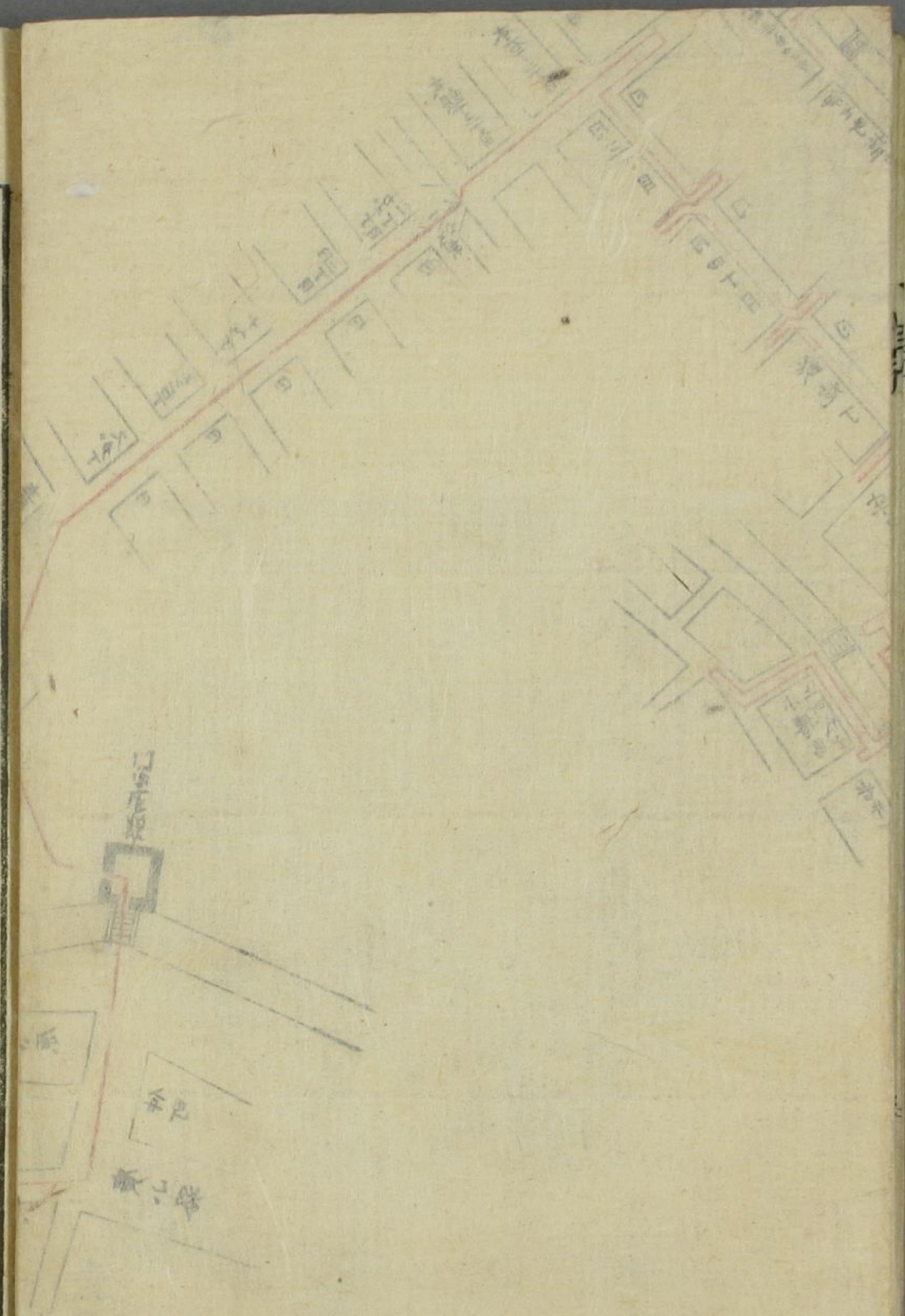
八雲社神輿巡行之圖



氏子町々巡行朱引巻のぼし

九





市政日誌第十號

慶應四戊辰六月十三日

○六月十三日於北裁所中夜

淺草川通町
 沼部吉地借
 古志渡世 惣 乞 湯

同人公仕
 寅 吉

具方在候去^レ朔日町人辨^レ之^レ者人抜^レ又^レを携^レ入^レ押込
 查^レ之^レ可^レ差^レ出^レ名^レ中^レ威^レ以^レ弟^レて捕^レ押^レと^レ宜^レ吉^レ候^レ發^レ掛^レ之^レ出^レ以^レ受
 証^レ文^レ以^レ申^レ越^レ多^レ法^レ之^レ出^レ根^レ差^レを^レ以^レ打^レ果^レ以^レ候^レ兼^レ少^レ町^レ解
 打^レ書^レ考^レ物^レ之^レ候^レ并^レ為^レ復^レ美^レ為人^レ之^レ者^レ目^レ指^レ之^レ文^レ之^レを^レせ^レを^レ

○同形

下谷山崎町寺丁目
名主

友 七

其方依幼名和吉と申先代友七方吉子と申成り及勤出
平日多親申付を不肖と後同人病守と返役後南辰改
頭五續いし一昔父病臥お暮獨立不申昔母依申中風
お煩是又同根打外居申付夜中お眠不致取厚人抱
いし一昔父病死後墓築お急昔母病臥お申依を者
病轉公を登一殊近年お價高直る支配場之依を

武亦方大紙地^お方^お役料お^お倉^おい^い交^い急^急者^者を
考一且所用もお^お願^願組合名^名主^主其^其氣^氣更^更も^も直^直候^候考^考物^物之^之依
付^付為^為廢^廢員^員銀^銀之^之枚^枚と^とせ^せま^ま也

○六月十二日町解

近來

鎮甚官極申中百又十友軍杯と申唱申中百依と申の町
人其見世先^先に^に在^在候^候又^又と^と途^途中^中お^おわ^わく^く付^付来^来人^人お^おを^を捕^捕へ
無^無依^依を^を申^申掛^掛高^高賣^賣し^し物^物お^お成^成以^以依^依仕^仕成^成一^一同^同秘^秘法^法以^以依
お^お以^以奈^奈と^と太^太振^振之^之依^依を^を有^有し^し乃^乃後^後子^子と^と以^以得^得在^在自^自然^然を^を省
同^同振^振と^と其^其の^の時^時勢^勢と^と連^連是^是太^太作^作と^と不^不業^業と^とお^おい^い以^以依^依を

有るは万以後大抵は後方より以て假令

官採由中亦不用其左の事も前年用控名捕裁事不

召連了訴出勿論後事を思はす凡のが一金沙ホ彦幸一

内分は後並に後ホ彦一若者捕押訴出は其論陸り無事

取計て遺り其方ホ心得遠多し取可致い

右と通町中不洩振可解知事のもの也

辰六月

○

右と南裁事所掛判事土方大一部

為九宰相殿は向洲五觸は右付各藩は以達并裁判所附

廻り及下中達りたて通者

○

三廻同公

別紙と通町觸差出は廿三日おろとも精々探索と上本紙

に不業およむは其の有るはり速に五捕差出は取て致い

辰六月

○

別紙之通何之上所中の觸書差出以之付之各藩の料きりの
其公得達之儀多之抄案多返常の答方之成此惟此達
中以上

辰六月

土方大一郎

下巻謀
山中

別紙所觸前同文之

○六月十八日於小裁所中後

其口三丁目

三吉地保

重助百仕

金次郎

其方俊常月十二日取主人居宅裏之方之物多の一
盜賊忍入以抄子之付兩戸を蹴外一立出以以怪の表之
不居以付組付捕押召連訴出以俊兼多之所觸を在守
珠之主人重助旅以苗中の左別而厚く公掛在在以辰
号特之俊之付為後美鳥目又人又とせきを

辰六月

○六月十八日所觸

是迄近江湖水通船所用荷物之分を無賃又之格外低
價を通以故来以文以来湖中通船所用荷物并法藩士
出之よりと總而取對賃を以通以不致松也 作出以事

六月

右之通從_ト如_レ此裁判所_ニ立_テ候_レ波_レ以_テ方_ノ町中_ニ之_レ洩_レ入_レ念_レ早_ニ
可_レ在_レ解_レ以

六月十八日

○六月十九日

上水方_ハ屋_ノ改_メ形_ト地_ノ掛_レ之_レ候_レ市_ノ政_ノ裁_ノ審_ノ所_ニ一_ト由_テ委_レ任_ス
仰_テ付_レ以_テ事

○六月廿六日

上水方_ハ屋_ノ改_メ役_ノ人_ト元_ノ組_ノ既_ニ已_レ下_ニ二十_ノ又_ノ人_ト召_テ出_レ市_ノ政_ノ
裁_ノ判_ノ所_ノ裁_ノ定_ス仰_テ付_レ以_テ事

○六月廿八日

右掛_レ之_レ候_レ今_レ取_レ立_ス
召_テ出_レ以_テ有_レ福_ノ言_ヲ接_テ持_テ米_ト知_レ言_レ通_レ事_ト之_レ尤_モ上_ニ之_レ屋_ノ改_メ
掛_レ役_ト高_ノ扶_レ杖_ト米_ト之_レ氣_ト中_ニ是_レ迄_ニ通_レ事_ト之_レ以_テ右_ノ於_テ南_ノ裁_ノ審_ノ
所_ニ判_レ定_ス土_ノ方_ノ大_ニ一_ト即_ニ申_レ渡_ス

市政日誌第十一號

慶應四辰年六月六日

○辰古月六日

街觸

今般銀屋^{（たがや）}差^{（さ）}並^{（な）}以^{（も）}有^{（あ）}る徳川家^{（とくがわ）}長^{（なが）}を始^{（は）}府^{（ふ）}下^{（か）}町^{（まち）}人^{（ひと）}等^{（ら）}之^{（の）}
 印^{（いん）}迄^{（いた）}才^{（さい）}分^{（ぶん）}并^{（な）}由^{（よし）}縁^{（縁）}亦^{（また）}有^{（あ）}る町^{（まち）}地^{（ぢ）}之^{（の）}内^{（うち）}支^{（し）}順^{（じゆん）}其^{（その）}外^{（ほか）}借^{（か）}地^{（ぢ）}等^{（ら）}中^{（ちゆう）}付^{（け）}
 有^{（あ）}る分^{（ぶん）}想^{（きやう）}多^{（た）}上^{（じやう）}地^{（ぢ）}之^{（の）}任^{（にん）}出^{（しゆ）}以^{（も）}右^{（みぎ）}之^{（の）}銘^{（めい）}之^{（の）}業^{（ぎやう）}を以^{（も）}て得^{（え）}可^{（べ）}し
 俊^{（しゆん）}有^{（あ）}る速^{（すみ）}地^{（ぢ）}代^{（だい）}金^{（きん）}等^{（ら）}之^{（の）}由^{（よし）}至^{（いた）}了^{（りやう）}其^{（その）}苦^{（く）}之^{（の）}以^{（も）}て有^{（あ）}る
 彼^{（か）}是^{（こゝ）}種^{（しゆ）}義^{（ぎ）}之^{（の）}地^{（ぢ）}之^{（の）}以^{（も）}て考^{（かう）}す可^{（べ）}し有^{（あ）}る格^{（かく）}別^{（べつ）}寬^{（かん）}大^{（だい）}也^{（なり）}

思食を以て當辰を年分は是迄に通地代を以て以て
柄厚ありては遠征を方安に尤も其外等補給
家作之分を別後 漸沙終多し以て勝手次第取計不
苦い可

但舊幕府の交領地有る者

朝臣を成りて町人となり幕府以来引續

鎮幕府附近用古知り者之交領地其外是迄は通地

下是に依りて改む社作後方より為給る不早し市改南

裁書所へ評教を其妻細志惚了す立い

右に通交領地之外亦有り以て町の町人其は不便也

可解知りの也

辰六月

○

御觸

旧幕府の交領町屋敷に依りて令般に觸り趣も是れ以て
當春幕府の武家屋敷町人其は債に依りて屋敷同様に均不
苦津願屋敷町屋敷に猶も次第に讓交讓渡し以て不苦
旨中後是以内より此極町地面を取潤有る趣及承渡是給

取取汁被りのものも有る趣多し此の外のこと此上五調
之等紛発計被りて並に考も急度不及沙汰は月々
お心得心均遠被り友以

辰六月

○辰六月八日

中ノ返

江戸町中

名主共

今般儀基^キ差^カ並^ニ以^テ付^ル事^ニ徳川家臣を始^メ熱^ク所人^ト
至^リ迄^ニ同^シ家^ノ江戸所地之内^ニ更^ニ順^ニ地^ニ或^ハ借^ル地^ニ領^ル地^ニ其^レ
外^ニ未^ダ付^カ有^ル事^ニ今般上地^ニ其^レ
作^ル出^ル以^テ寫^ル事^ニ其^レ心^ニ事^ニ

一 太^ク上^ル地^ニ 作^ル付^ル以上^ノ地^ニ代^ニ重^クお^シ儀^ニ重^ク以^テ事^ニ
不^レ有^ル事^ニ知^ル左^ニ以^テ事^ニ差^カ向^テ新^ク儀^ニお^シ以^テ者^レ不^レ有^ル事^ニ付^ル
格^ニ別^ニ寛^ク大^ニ

一 思^ハ食^ハ其^レ南^ニ辰^ニ事^ニ年^々之^レ儀^ニ是^レ迄^ニ通^ル事^ニ下^ニ墨^ニ以^テ事^ニ
徳川家臣共

朝臣社

作付以而く之、交順地土代、所沙汰等、町人等も旧幕府以来引續ゆ元

鎮基府附以用お氣以者、交順地是迄、通々公得志新之類、早々取廻了中出以

一 来已年々地代上細方ホ之儀、取計方お伺可申以右之通了お解以

辰六月

○六月廿日

市政

裁判所

所城内外之死骸お見當以去市政裁事所、為取控見分書之監察局、了差出以事

辰六月

所城内外とも死骸お見當以、市政裁事所へ為取控以和社、作付以月以後死骸お見當以、月番、市政裁事所、面以松法由門、并巡邏隊、以向、以出達、有之度以事

辰六月

市政裁審所

判事

下巻係

山中

○辰六月廿二日

町觸

町中所^り益^ぎ賊^{ぞく}押^{おし}込^こ又^{また}十^{じゅう}拔^は刃^{やいば}者^{もの}性^{しやう}来^き人^{にん}と^と威^い全^{ぜん}残^{ざん}集^{じふ}
取^と手^て荒^ら及^{およ}所^{しよ}業^{ごう}以^も之^の有^あり^りサ^さ中^{ちゆう}兼^{けん}所^{しよ}未^ま固^こ中^{ちゆう}合^が並^{びやう}
其^{その}隣^{りん}を^を勿^な論^{ろん}家^か等^らの^の共^き速^{そく}馳^ち付^つ打^う考^{こう}取^と押^お了^り中^{ちゆう}若^{じやく}
手^て條^{じょう}り^り以^も打^う殺^{ころ}し^る不^ふ苦^く分^{ぶん}先^{せん}先^{せん}幕^{まく}府^ふ觸^ふ示^し並^{びやう}以^も越^こす

有^あり^り町^{ちゆう}中^{ちゆう}兼^{けん}中^{ちゆう}合^がり^り子^こ答^たも^も有^あり^り以^も内^{うち}之^の处^{ところ}今^{いま}般^{ぱん}
朝^あ政^{せい}濟^{けい}一^{いつ}射^{しや}に^に射^{しや}中^{ちゆう}取^と締^{てい}和^わ務^む又^{また}嚴^{げん}重^{じゆう}之^の條^{じょう}自^じ然^{ぜん}
左^さ和^わ及^{およ}不^ふ業^{ごう}以^も之^の越^こ色^{しき}淡^{たん}以^も之^の以^も外^{がい}付^つ向^{むか}後^ご注^{ちゆう}
左^さ觸^ふ書^{しよ}之^の越^こ古^こ守^{しゅ}り^り厚^{こう}中^{ちゆう}合^が並^{びやう}左^さ和^わ及^{およ}惡^{あく}業^{ごう}以^も之^の以^も以^も
子^こ速^{そく}召^{しやう}捕^ほ又^{また}之^の庇^{へい}付^つ打^う殺^{ころ}し^る共^き不^ふ苦^く以^も尤^ゆ死^し骸^{がい}并^{びやう}捕^ほ以^も之^の共^き
召^{しやう}連^{れん}了^り訴^そ出^{しゅ}具^ぐ京^{きやう}考^{こう}吃^く度^ど以^も孫^{そん}美^み了^り之^の下^か繼^{けい}令^{れい}捕^ほ押^お訴^そ
出^{しゅ}以^も之^の後^ご程^{ちやう}程^{ちやう}を^を勿^な論^{ろん}重^{じゆう}を^を吃^く味^み以^も之^のサ^さ中^{ちゆう}呼^こ出^{しゅ}古^こ守^{しゅ}り^り儀^ぎ身^み
批^ひ決^{けつ}了^り之^の有^あり^り訴^そ出^{しゅ}以^も初^{しよ}子^こ續^{じよく}香^{かう}細^{さい}認^{にん}了^り差^さ出^{しゅ}以^も
但^た盜^{たう}賊^{ぞく}并^{びやう}札^{さつ}妨^{ぼう}人^{にん}亦^{また}取^と押^お以^も之^の中^{ちゆう}入^に用^{よう}以^も之^の下^か下^か遣^{せん}召^{しやう}
其^{その}時^{とき}以^も書^{しよ}面^{めん}之^の了^り了^り之^の以^も

右ノ通町中ノ河原ノ了解知事ノ也

十一

五

市政日誌第十二號

慶應四辰年

○清高礼場所

日本橋
常盤橋外
浅草水門内
筋違橋水門内
高輪大木戸際
半蔵水門外

定

一人ノ右ノ五條ノ道ヲ歩ク事

一 鯨寡孤獨廢のものを憫むべき事

一 人を殺し家と焼き材と盗む等の悪業はまじく事

慶應四年七月

太政官

定

何事ふよらばと後一如らざる事亦大幣中念いと
ととうととあんととうととあいつと後つひに
とととたをあらそといひあつひを中念居所
居村とならぬきをてうさんと中堅く浄法度
より若た形に候られらるべき事其節に候所

中出べし御らるび下さるる事

慶應四年七月

太政官

定

一 切支丹宗門に候て是迄浄制禁む通圓くてある事

一 邪宗門に候て固く禁止し事

慶應四年七月

太政官

○辰七月二日

江戸市中へ
町筋

近來頻に路人を暗殺し其所持之金奪取に起甚以不堪
之等之有屢殺重し
所沙汰之社及以得角之悪習去所改道も不
之有自稱又以反嚴重之社作出家来其主人を隊
隊長其好来く之を其父兄之結い自然に其

所業より其社其家考の早に取押刑法に下中出
万一藩士之隊等々中多不心得之者有之社に捕
押ありハ本人も其社に厳刑其主人は隊長等々未
其害り父兄一家に落度なるに依り此度所然とも
作付以条不取締多に松厚く了お心得方社
作出事

但夜中往来は以命を提燈の末成者退社
作出方ハ心中不取用之の者ハ裁お夕以外
之より以来毎提燈往来ハ志方ハ以り又付以第
一町捕以并市中に於て礼務は志方ハ常刀之り

とも不用拵に捕獲一子條のいり討果し其苦以事

六月

右へ通於

太政大臣

作出の方南府へ依り六月申筋を以通

宗考町人共申名速に召捕月番市政裁事所より了差出

子條のいり赤報の上同報に訴出

右へ通申中不洩抄早くと筋知とのく

辰七月

別紙へ通觸し候に付申但書に依り武蔵守に申中申提

候に依り朱紋に依り未成候由論に依り町人共依り

了成文に依り提灯に依り朱紋に依り

右へ通申に依り

辰七月

○辰七月五日

町觸

右觸南所續元内海に基場修復會所を廢止右取に今般

石炭取修局に依り建ち成に付市中町人共抑あて勝手

石炭賣買一切被り及大局に届出然許文以上商賣に依り

万一分に遠海に密賣買被り以上の控申を急度了及

沙汰以百知為遠多々杯了致以
右之通所中不洩杯了以在亦觸以

辰七月

市政日誌第十三號

慶應四辰年

○七月五日所觸

江府法問答より法國考至其仕入前全未進之續出
有以以于近東荷元々之其免角不突之其針其仕入
荷西報費不致一或も滞以分も不_少有_以江戸色_也其_以
各地法事_も澄_も持_り以外_も事_も其_も以_も文幕府_也

為廢以以故之條以江戸入津之荷物未減仕入金等
貸弄り之成成居由ある以故江戸
徳意之義也

朝廷之政令令以上之國之荷主在也公得遠年之旧
來之取引實之忘却不致若送未至澤了致有不正之
責故一以之方以仕入金未無謂滞以之江府之
咄出急度不及沙汰以且江戸問屋之國之未送之荷物
之候も鬼角代金未澤候之秘儀為致以趣も未問居以之
是又去冬以來之江戸之勅徳を推計り別命未澤以趣以
右取不實之取計り以之以外存以上無不實候之

以之取引了致以江戸法問屋も此上不
向仕切方あり或も送荷不如何之計り以之
有以之相之上者之可及沙汰以之取引了致以
各地未は、浪沢方等一之無以尤仕入金未送荷不
右之通古觸以上之無掛念引了致以之澤以之方以
不實之取計り方以之月番市改裁判所之可訴出以
尤前之仕來不拘速之呼出皆明之可也
右之通江戸問屋未存江戸之取引了致以國之可解

辰七月

○七月七日江坂江書付之通

京都府

大坂府

江戸府

長崎府

筑前府

神奈川府

越後府

大津縣

兵庫縣

笠松縣

久美濱縣

日田縣

富高縣

倉敷縣

天草縣

三

高山縣

奈良縣

三河縣

右ノ通商規定ニ依成リ

六月

○
 總領事官港ノ士商人ト論ズル外國取立案組ハ其ノ如
 ク此府縣ノ證書ヲ取立テ申渡書ヲ集メテ分テ列強
 ノ上其府縣ノ上陸不差許ル事
 右ノ通商

作出ル事ト云直不洩其言事ヲ取解テ申事

六月

○
 一 日本人朝鮮王ト漂流シ其ノ於彼處厚ク扱テ釜山浦至
 梁頂ノ地ト和親ト稱シ宗對馬ト家米諾全ノ場ト送而

漂着之江身書翰と以中越之江對妙之途に漂人之國不
實考之長崎府或大坂府へ送了而其府之具傾主ト
引渡中ハ事

一 朝鮮人本邦之内有之漂着ハ其其府之府藩縣ハ
長崎府に送而其府に於て漂流之顛末ハ衣糧給與
船艦修理之江對馬之役人引渡夫ハ長崎府之浦觸と
以對妙之途取ハ事

但浦觸之江其其朝鮮人對水之江風波惡友ハ其其
給與以可ハ通之江觸之江事

一 漂人長崎府に對妙之途以上對妙之文之仗者其附被其
復送之江事

一 漂人之内死之者其其棺斂之送之日本之地ハ不
葬ハ事

右之通也
作出以石此信中達ハ事

六月

七月十日北裁判所おわく

口達之覺

紐之世法を
名 五 共

今般大久保興七郎と係り市政裁判所附設 作付以て府
向後盡取とあり市中あり怪愛との足をもつて捕
管付具方お心得下り

太し趣給くお渡松子と中通は松一はは

辰七月

市政日誌第十四號

慶應四辰年

○七月十一日

林昌の如甚外服走の賊徒英氣船と奥州平沼に揚陸
甚後何方の船方と裁中汚濤の英言船と艘着岸散槍
おとむは怪不而く玉追て相上急方下 作出あり
有しは乃先高分の内石炭買取運送し候と列藩に
預出以上下は計分 作出以府町人通り運送候
しは其の足を以て切控は管は条以各町中未と迄は渡松
可解知との也

太し通市政裁判所 社経法は百以各町中と渡松り解知

辰七月十一日

○七月十日何淋

法正觸配符出方改而依存存相以書付

[符條之脚]

町年号

法正觸在任出以符之私在南方北方中通三四、振沃、
配符教三拾通、在認町格之以順達、一付符配符小口町、
自身番屋日向町觸及出夫、町之順達、是是這達來以、
今取町法正改正有番屋、切社作出殊、是是番屋法正

役人凡不名之通達方延研取取所役人凡印色承知仕
名主凡心得方延到本取不却令、依是、趣組本分、
幸の此度所改正、任出以有觸方、後、改正仕、
名主凡番組式拾之組、内坊持、分二組、通或、
組、通、仕、沃部合拾、通、番、認、名、主、凡、連、名、宛、為、取、觸
下中、与、身、取、以、左、以、右、其、組、小、口、名、主、凡、不、組、合、内、順
達、仕、名、主、共、格、以、町、役、人、凡、取、通、町、役、人、と、
店、借、之、者、凡、中、同、以、以、身、順、達、之、通、方、番、屋、以、兩、置、
且、所、役、人、凡、順、達、方、之、子、取、之、者、有、之、私、在、方、取、
字、取、未、觸、觸、出、方、字、計、之、者、本、番、由、令、依、与、身、取、以、付

右仕法多便利之否打小口其作是る命主才の在尋以処
右仕法勢亦和以第丁簡易多便利之趣惣組一統修訂
之工中出以乃自今之期去之通組合而中々之口之振
觸出之仕と尋存以尤火急以觸余之命主才組名此
指之組を以式指之通之在認觸出之仕左比得之務更
是方更刻之在亦便利之候存以來去之在改訂了仕
身及以候、此後奉向以以上

但觸配存出方仕法之儀仕在、候多起立
触亦分且仕法勢之候先例も身之以候并高地位
利益支上之存存以存亦之通存向以

辰七月

増後之助

森多村又四郎

鍛市左衛門

○七月十二日南裁判所相成り申渡

番組人宿肝茶

宿屋所共務地借

政次郎

御出納内明届支多と存及端草生茂り中々仕遠白塵芥
杯控以之の者、以存草刈及掃除之候更更申付以届
尺若及候多、此入意世話、了申以志人足銀并

草刈及代わく候事、主以銀高と通る中付以方口
兼刈掃除場不并人出言、後中主以松了波以
右と通新、紅後身畏以、為後日何也、

慶應四年七月十二日

宿屋町

政次 印

家主

専 務

代官五人組

浅次 印

○ 日記

番組人者行末
宿屋町専務地借
政次 印

所出輪内、乞食人、主入、込法番、和、查、入、込、不、得、
舟、此、度、敷、考、屋、橋、口、の、銀、治、橋、口、の、異、報、橋、口、の、常、務、橋、
口、の、神、田、橋、口、の、一、つ、橋、口、門、橋、口、の、外、橋、口、の、日、比、
口、の、九、ヶ、所、外、法、番、不、得、番、人、之、人、是、却、合、式、控、七、人、是、
是、以、右、由、曲、輪、内、乞、食、人、之、數、不、主、入、批、否、判、一、
尤、法、金、其、外、之、候、事、申、上、以、再、々、令、言、事、申、付、以、
入、法、番、人、之、外、之、候、事、不、得、候、事、申、入、法、了、事、申、以、

右之通 任後奉畏以為後日仍如律

慶應四年七月十二日

留居所 政 次 郎

○七月十二日

徳川 芝 甚 是 迄 水 戸 表 後 悔 也

仰 付 呈 以 处 徳 川 表 之 脚 亦 歎 然 之 趣 也 有 今 般 改 而

駿 府 室 甚 院 之 轉 後 也

仰 付 以 存 此 方 下 迄 不 渡 松 下 亦 存 以 事

七月

右之通

鎮 幕 府 之 事

仰 出 以 旨 所 中 不 渡 松 下 能 知 之 也

辰 七 月

○七月三日所名唱替下後

筋 遠 橋 門 外 漢 武 西 附 町 屋 敷

筋 遠 橋 門 外 上 納 地 与 留 替

一 今川橋埋之地
濠武所附所至矣

神田今川所与留地

一 公梅渡る瀬南所代地
濠武所附所至矣

二 瀬南所与留地
代地刻張地

○七月十三日

方今

王化天下あまの不洽あまりんと歎んけし時よ南り無事乃
 生民兵燹ひびの災あ不ろりか之あ洪水暴漲あ惨あ毒あ之あ近
 畿あ甚あ一あ旦東北あ諸路あ賊あ徒あ平定あ之あ以あ生民之
 塗炭あ一あ端あ不あ救あ恤あ身財あ之あ是あ為あ之あ交
 皇上あ深あ歎あ之あ為あ救あ恤あ身財あ之あ是あ為あ之あ交
 痛切あ之あ也
 作あ出あ之あ付あ之あ至あ仁あ之あ聖あ之あ體あ德あ之あ民あ之あ也

安撫を以てむらむ今日府縣の責を承り所今創建
の初救荒の典未タなきこと之を一日も民菑む
その所一日いさよと濟せざるをあらん況や今日
賑給の窮厄をや故に賑救の急務を記す

一 兵燹に厄洪水に害窮民流離路絶よ之を一村
寂人且に破産蕩家おつて細洋に直懸一救助
其宜と濟を以て若兵厄水害を被る地を以て
搜捕を宜とすはは小令教を以て其れを却る蠹災
を生し下民の怨望を起し宜くくする事
一 没田の民ハ全く其租税を免し之を代漲溢の田畑ハ

落敷の積重を量り蠲免を宜とす事

一 堤坊橋梁を破壊急に修葺可致事

租粟俸不私利を當る廉吏を擢ぶ水程を精さ

その不任一人吏を以て此の窮民を貸し可

お自事

一 厄害の等々を承り救恤の心を以て今日のみならず

奏可とすを府縣に當任す宜とす事

右に通京都表は

作出の事

○七月十七日

寺島陶苑

兼該臺府會計並市政裁判所清用法
作付以事

○

井関森右衛門

兼該臺府會計並市政裁判所清用法
作付以事

七月

市政日誌

○七月十七日

- 一 田谷 西門
- 一 市谷 西門
- 一 牛込 西門
- 一 小石門 西門

筋遠橋 四つ

浅茅 四つ

但本町通りより西の方

常盤橋 四つ

呉服橋 四つ

板治橋 四つ

数寄屋橋 四つ

山下 四つ

幸橋 四つ

虎 四つ

一 赤坂 四つ

右四門より内と四曲橋をお唱り奉

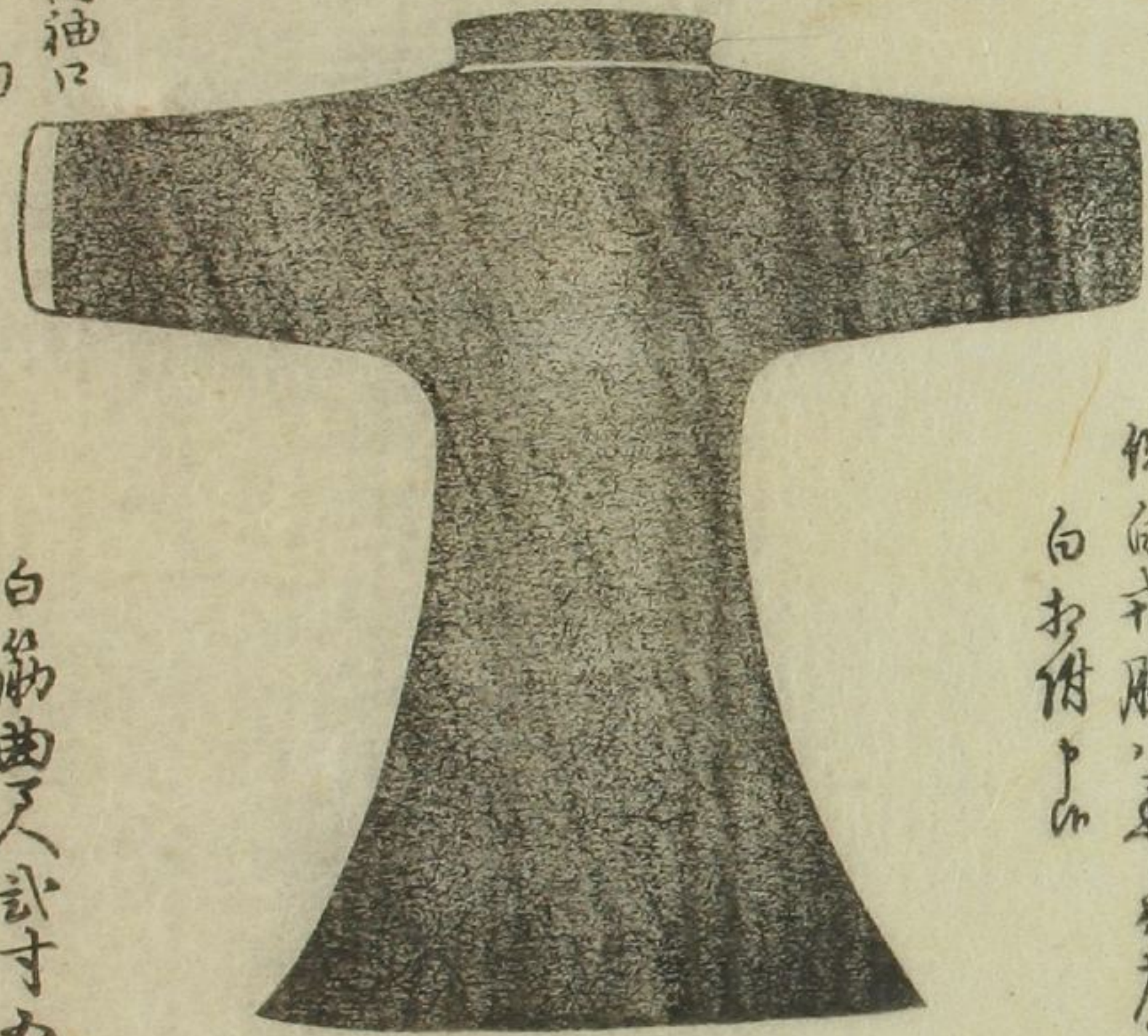
○七月十七日お極い

南 市政裁判所附兵隊目印

北 小隊旗

一日

左、筒袖口
白



戎服

但白戎服、是右左、筒袖口、下
白打附、也

白筋曲、尺貳寸、也

赤

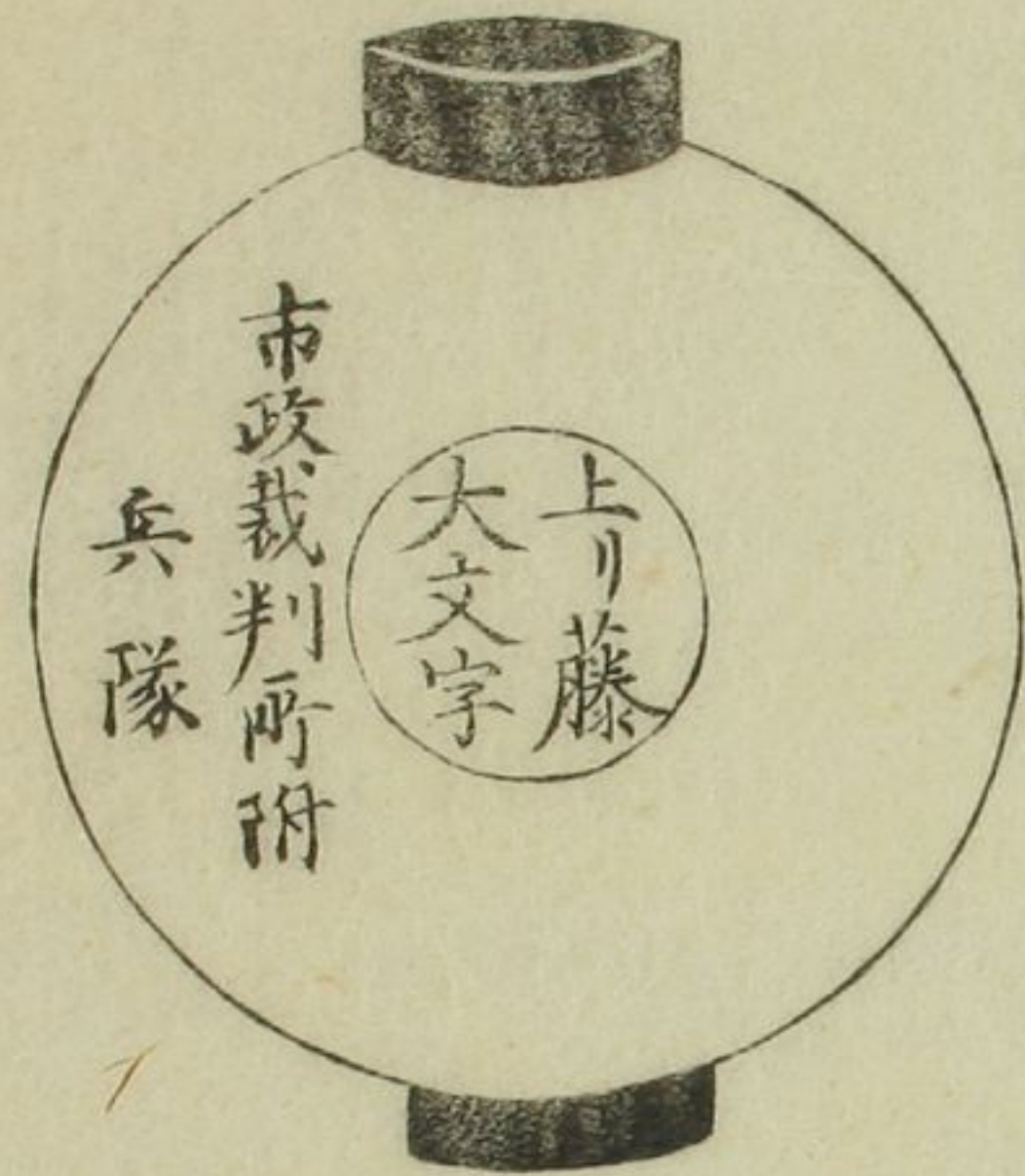


赤

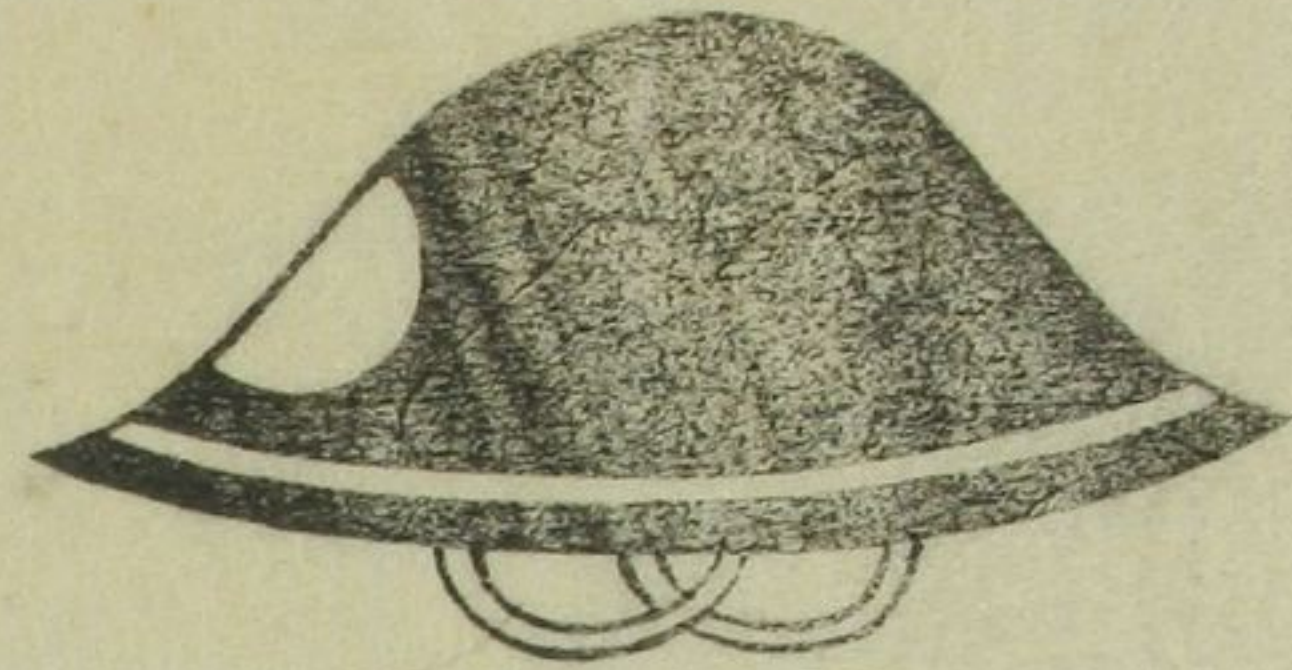
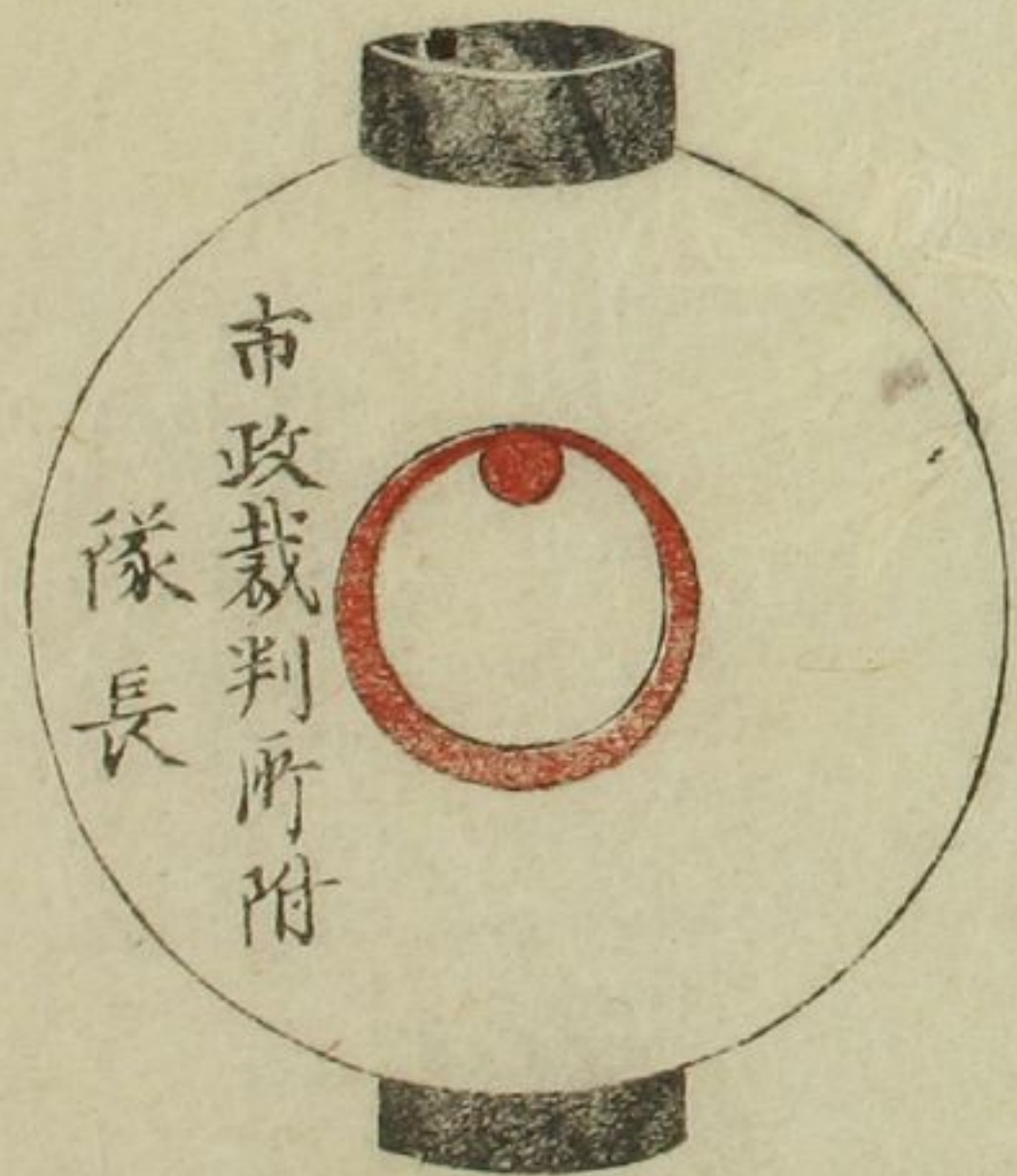
四

大

級、伍長提灯



隊長提灯



級、伍長笠
小縁金筋
前自紋金

兵士笠
小縁金筋



肩驗

但存之肩驗

南
北
市
政
裁
判
所
附
兵
隊

司令士
半隊司令士
總幹役
任長
兵士

何
之
誰

曲尺白堅九寸横式寸五分地白紺長呂服

市政日誌第十五號

慶應四辰年

○七月十九日差中一以同安第
高札此文云

覺

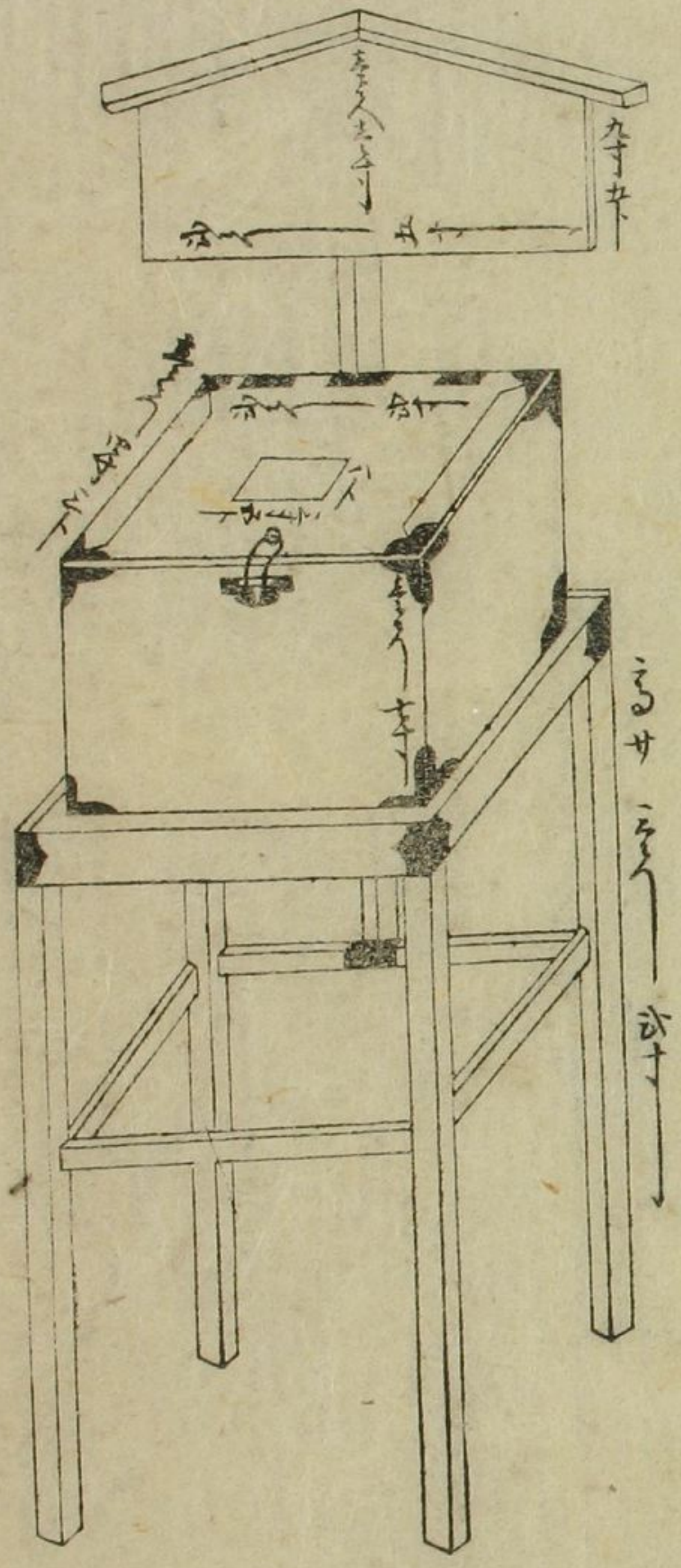
王政一新存多下情費微万民安法者生業也
安一以存之安友与至仁
思石、以爲 在、者
朝廷之為嚴也、將、或、後、人、之、權、威、不、以、是
自然民情困塞致一以、不、お、海、事、一、付
今般目安第者、一、者、下、之、之、の、其、在

以趣意と其裁と
 朝廷の者筋を不及中洪役人可名曲也民名疾
 若尔何のふとて從之忌諱封書と
 此箱に入置て毎月
 法皇宮前におきて封封とてその月お成る
 筋と速く採用する生とのや

辰七月

判府事

由裁判所表門口事人治り口略の方
 月番の差出表目安箱の図



右建札文言所觸通、有之、事

○七月十九日於北裁判所中

組、

世話掛

名 主 共

元來市民共切率より教育方不宣成長不陸の
放蕩無類、お放果を任所と離れ法禁を犯し
重科に就かよひそのお放果を全く善業におき
親善古くお放果を以て、即ちお放果を父兄 親族の
そのせしめ固く、迫り教道におかた故を憐れん
深く歎かよひ、存分教市中所へ、善業
奮古く、お放果を以て、そのお放果、市民子弟
一回出席勉勵奮古く、人々深く、誠実
産業努力に、
汗園益もお放果所受人を、勿論、

主之山その昔を享く世後可致の世入用多高向
之候も亦個々之者支せし極度之下之者
以高細之云渡極之個子之事一出

七月

○七月廿二日

市政裁判所掛判事 西尾遠江介 去方六一席
開市所用兼初注 作付の事

○七月廿四日

今般養老之典あやむらじ為卷八十八以上之者おと毎半
或人扶持百歳之おとしなま三人扶持下御おとしなま依る支々
府縣之役之亦個々之通之執行名注
作出の事

七月

○七月廿四日町觸

武家屋鋪之商人おと貸付之者おとしなま之者おとしなま之者おとしなま
高春以来お池おとしなま之様之町人おとしなま貸付之者おとしなま之者おとしなま
お池おとしなま之様之町人おとしなま貸付之者おとしなま之者おとしなま

人別潤并支配而自化く差別と考ひ不_レ在_レ締_レし
筋_レ存_レる_レ来_レる_レ武家地_レに_レ高_レ人_レ共_レ差_レを_レ一_レ切_レ難_レ
お成_レる_レを_レ貸_レさ_レる_レ分_レり_レ町_レ敷_レの_レ行_レ儀_レの_レ致_レの_レ
家_レ来_レ分_レ杯_レ中_レ唱_レ字_レ宗_レの_レ考_レ人_レ別_レ給_レ後_レ考_レの_レ
考_レ並_レる_レ湖_レと_レ急_レ度_レ及_レ沙_レ法_レの_レ
右_レ通_レ武_レ家_レ方_レの_レ筋_レ出_レる_レ町_レ中_レに_レ儀_レ極_レ可_レ編_レ知_レ
之_レの_レ也

辰七月

○七月廿七日於南裁判所下渡

改正掛

名 主 共

今_レ般_レ院_レ炮_レ賣_レ買_レ并_レ換_レ炮_レ販_レ治_レ職_レ之_レ考_レ為_レ不_レ締_レ
右_レ同_レ在_レ株_レの_レ考_レ免_レの_レ考_レ成_レ一_レ定_レの_レ規_レ則_レ考_レ之_レ高_レ法_レ之_レ度_レ
右_レ成_レ之_レ儀_レ也
作_レ付_レ之_レ考_レ右_レ之_レ級_レ下_レ付_レ以_レ考_レ望_レ之_レ考_レ撰_レ考_レ之_レ
了_レ之_レ也

○七月廿七日於南裁判所了後

牛込横吉町

云人經持店

按摩所

新石井

源 清

其方依幼年之初盲目之由故自肩後浪檢校才子
成標藤治男元右後世若洲之三日とお當由親

中付候聊不有曾父平八病中原く看病ゆ
病死後之母と大切之被平日汝世お勵母病氣等
之由に汝世お休原之由に困窮之由に母好
不之買個幸又一之藤治先之曾孫の由に持届り
為給之由に妹き之難治とお察し一之夫婦子供共
同居之考並世信ゆ之善盲目之男分右右辭
年来孝善之由に汝世之考之奇特之
汝世存廢美之由に之盲目之持由文之考之考之

○
梅南所

家至

栄 表

其方儀芝西無与所 在之儀方勅中 乃之向及
表^表殿^殿少^少とお款^款下^下結^結玉^玉成^成回^回不^不動^動一^一七^七日^日以^以合^合致^致
主^主の^の業^業と^と行^行志^志実^実と^とお^お勅^勅唯^唯以^以後^後之^之梅^梅南^南所^所
栄^栄助^助方^方に^に解^解養^養子^子、お^お取^取回^回人^人病^病中^中、原^原々^々看^看病^病致^致
之^之と^と若^若母^母か^かな^な儀^儀迄^迄、及^及若^若喪^喪病^病差^差致^致之^之と^と
言^言教^教附^附依^依合^合言^言之^之と^と世^世活^活之^之、好^好み^み不^不と^と伯^伯為^為給^給

之^之乃^乃と^と蘇^蘇按^按と^と若^若、去^去、寛^寛永^永六^六月^月中^中、兼^兼儀^儀之^之也^也
之^之名^名清^清所^所、之^之の^の中^中合^合自^自分^分名^名而^而之^之と^と言^言、今^今指^指お^おあ
施^施差^差出^出、家^家内^内睦^睦愛^愛お^お蓄^蓄、右^右所^所、忠^忠勤^勤孝^孝若^若と^と
之^之の^の以^以成^成禮^禮之^之の^の之^之奇^奇特^特、儀^儀付^付為^為、褒^褒賞^賞、
右^右目^目指^指お^おあ^あ之^之と^と言^言、世^世を^を生^生か^かす

牛込横与所

西人雜持店

上條織

龜 吉

日人賣

安次郎

其方在彼平日何のりよとて母に付てお尋職業お勵
雅潔之中一母好いお尋調由給て方廿八日實素侯約致
見分贈交お尋一孝者とてその位様とてその
由人其奇特とて付為麻呂者目指お尋文書せ給す



沙草八軒町

家 主

定 松

其方彼去卯十月中お母之ん病お煩
少許兼用多し由海回所病お不効日
病氣平癒と祈願し一毎お増添有る病被
母其平日同お親言致候仰付平癒之立能
致しお身、快方、強し付し今候候如し候

為致至存高辰年々々々年々々々
也々々丹誠と々々々々々々々々々々
是年盜難、あひ在々々々腕ひらりのうでは切落為難不自
由言々々々成美々々々々々々々々々々
叶ひ々々々々々々々々々々々々々々々々
々々々々々々々々々々々々々々々々々々



之河所武丁目

平吉坊借

今江新方同居

長江新婦

三ノ川

其方倭父長江新と去々々々年十月中旬
申風お然かきわ起おこる不自由存管執看病了々々
聊いさ言いはれ父々々々々々々々々々々々々々
今江新妻江子美水腫お然亦川一々々

井五

室以布を以て職業おし能く出山に付而中
之方依而保く世に在り勿海業用多高不厚
心付右有合く之類信りおし右若若
方し手助の心一室新志意若若世に
種く之のそ奇特之氣付為獲美一為自
拾の費文亦く之若也

芝車所

家持

子之湯

其方依所合所におし之日種種わらびし之の
山救茶茶下は之の種茶の店備く外之若若
茶苗又も右代して誠は百文了茶右山救茶
里送新便も類合合指のあ之茶余種わらび若若
将く之のそ之の特く之の付其合也

十五号

○七月廿九日

石出常刀

囚獄注 免以事

七月



匣塔鄉補

高分囚獄注 作付以勅向、案、市政判事
指揮 、文、事

七月

